

## 9 外国の人

### (1) 避難所で困ること

- 避難所内の生活ルール、行動ルールがわかりにくい。
- 言葉の壁で情報が得られないため、周囲とも意思疎通が難しい。
- 宗教や習慣の違いで誤解などが生じることがある。
- 避難所から母国（家族など）に国際電話ができず連絡がとれない。

### (2) 必要なもの・体制

- ・【コミュニケーションボード】を活用 ⇒ p.34を参照
- ・【支援ネットワークの構築】メールなどにより遠隔地からサポートを受ける（他地域の自治体や国際化協会、NPO、外国語大学など）
- ・【多言語支援センター】※の設置を検討  
⇒ 日本語を母語としない被災者に対象を絞って支援活動を行う組織

### (3) 災害直後の対応方法・考え方

- 対応方法（ハード）
  - ・ スマートフォンなどを活用した翻訳機を活用する。
  - ・ 国外との通信手段の設置（国際通話できる電話、パソコン など）
- 対応方法（ソフト）
  - ・ やさしい日本語や、ボディランゲージ・サインを活用し日常生活に必要な情報を伝える。
  - ・ 「外国の人（住民・観光客）も利用できる」ことを避難住民に伝える。
  - ・ 避難所入口看板、各種張り紙はサインを中心にわかりやすく表示する。
  - ・ 宗教上食べられない食材などを本人に確認して食料配布など対応する。
  - ・ 避難所を巡回する場合、外国の人特有の課題に留意し対応する。

#### (4) 必要な専門員（避難生活が長期化する場合）

- 通訳者（被災地で活躍する多言語で通訳できるボランティアなど）
- 「多言語支援センター」の設置

#### ☆ 少し気遣って・・・

- 「外国の人だから特別扱いされている」と周囲から思われたいよう、対応する場合には皆のいる場所で行うなど注意する。
- 簡単な英語ができる外国の人には、日本旅行のガイドブックなどを活用しながら会話をする方法も検討する。